

事業名 世代間交流事業「みんなの夏祭り in とやの」

趣旨 子どもたちが夏祭りの楽しい思い出を作ると共に、普段交流することの少ない異なった世代間の人たちと交流を深め、豊かな人間関係を作ることとを目的として開催する。

実施主体 新潟市鳥屋野地区公民館

参加対象 鳥屋野地域の子ども

参加者数 80人（子ども72人 保護者8人）

回数 1回 日数 1日 時間 2時間

場所 新潟市鳥屋野地区公民館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	7月29日	みんなの夏祭り in とやの	地域のスタッフ12人 地域ボランティア13人
1	内容・方法	○昔の遊び・射的・魚釣り・切り紙・折り紙・すいか割り・俳句・ストラックアウト・ダーツ・落書きコーナー・マジックショー ○事前にスタッフで企画会議を8回実施しコーナーごとの準備をした。 ○9種目中4種目をスポーツのコーナーにした。 ○各コーナーをスタンプラリーで廻り、工作・切り絵コーナーなどの手づくり作品の持ち帰りで景品を多くし、最後にお土産のプレゼントをした。 ○参加費100円	

- 成果
- ① カウントダウンで入場し、祭りを盛り上げた。またスタッフの大人が楽しみながら子どもと係わることで、子どもは遊びに集中し大人も楽しんでた。
  - ② 8回の企画会議と準備でスタッフの交流が図られ、当日もお互いに協力し合えた。
  - ③ アンケートから
    - ・ 毎年参加している子どももいて楽しみにしている。
    - ・ スポーツ的な遊びや工作・切り絵・俳句などの手作りコーナー等、色々な遊びを楽しむことができた。
    - ・ 親も参加して昔の遊びや射的などを楽しんだ。家でもお手玉や綾取りをやりたい。
    - ・ スタッフの係わり方で、俳句も子どもたちの素晴らしい感性を引き出せることに驚き、共により勉強となり一緒に楽しむことができた。
    - ・ 子どもは遊んでくれるスタッフがいると、一つの遊びに集中する。綾取りやお手玉など上手な子が来てスタッフや他の子も交流ができた。
    - ・ 参加者は手作り作品やゲームの景品など、お土産をもらい大満足していた。
    - ・ 高齢者のマジックショーも子どもたちは楽しんで交流していた。

- 課題
- ① スタッフの確保（青年から高齢者まで募集、少ないと準備や目的の交流が充分にできない。）
  - ② ゲームの内容や募集方法の工夫
  - ③ 祭りが楽しめる雰囲気作りと会場のレイアウトなど

問合せ先 新潟市鳥屋野地区公民館（担当：井川庸） TEL：025-285-2371

**事業名** 公民館へ行ってみよう Day!  
～あなたの明日を豊かにするヒント～

**趣 旨** 団塊の世代が大量に地域にもどり、地域の構造が大きく変わるといわれている中で、公民館が社会教育の場であること、活動している団体が協議会を組織して自主的な活動であることを広く市民に情報提供する。さらにサークルの活動をPRすることで地域貢献するきっかけとし、サークル同士、参加者との交流の場も設ける。

**実施主体** 新潟市石山地区公民館、石山地区公民館利用団体連絡協議会

**参加対象** 地域住民、石山地区公民館の利用団体

**参加者数** 224名（延べ参加者数 319名）

**回数** 1回 **日数** 1日 **時間** 5時間30分

**場所** 新潟市石山地区公民館

**内容**

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月13日(日) 10:00～15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館の活動の地域公開と地域貢献</li> <li>各サークルの活動紹介と新規会員の募集</li> <li>各サークル同士、会員同士の交流</li> </ul>	利用団体による実行委員、公民館活動協力員など
	内容・方法	<p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動紹介コーナー:公民館で活動しているサークルを紹介するブースが20団体参加した。その他、石山地区公民館の定期団体の一覧など情報提供するコーナーなどを設けた</li> <li>○一日体験の催し:陶芸、男子厨房に入ろう、ラテンとタンゴへの誘い、布ぞうりづくり、学習相談など11講座を各サークルが主催した。</li> <li>○交流ホール:第1部-健康パフォーマンス:体の健康をテーマに活動しているサークルによる「動き」を紹介した。 :第2部-大交流会:参加者が一同に会し、リレートーク、和談などを展開し交流した</li> </ul> <p><b>方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まったく公民館に入ったことのない人をイメージして、なるべく気軽に参加できる体験をたくさん用意した。また、ちょっと休憩できるような喫茶コーナーなども提供した。</li> <li>○利用団体と実行委員会を組織し、継続して話し合いの場を設けて企画を練り上げ、いろいろな分野の活動サークルが意見を出しやすい工夫や、みんなで作り上げていく雰囲気を作った。</li> </ul>	

**成 果**

- ・ 実行委員会を作ったことで、積極的な関わりとみんなで企画して作り上げる楽しさと達成感を味わった。
- ・ サークルを超えた人の交流と、これまで公民館に足を踏み入れていなかった人の参加を促した。
- ・ 催しを主催したサークルでは、参加した人に楽しんでもらう工夫をしたり、話し合いの場をたくさん設けたことによる会員同士のつながりが深まった。
- ・ アンケートで企画委員を募集し、現代的課題をテーマにした事業「大人の放課後くらぶ」へ発展した。

**課 題**

- ・ 催しが同時進行の時間であったため、参加者から苦情をもらったり、超人気の催しに申し込みが殺到して断るのに苦労したりで、催しをどう工夫するか。
- ・ 一日開催のため間延びした時間ができたこと、こちらが提供する情報と、来館者が欲しい情報のずれをどうするか。
- ・ こちらがねらう団塊の世代の参加は少なかった。などを検討して次年度につなげる工夫が必要である。

**問合せ先** 新潟市石山地区公民館（担当：熊谷いみ子）TEL：025-286-5631

事業名 **大人の放課後くらぶ**  
**～新しい自分に目覚める時間（とき）～**

趣 旨 団塊の世代を含めた世代に向け退職後の人生を豊かに過ごすためにどんなことが必要かを考え、また仲間作りを通して地域のつながりや人が育つきっかけをつくる

実施主体 新潟市石山地区公民館

参加対象 おおむね50歳以上の成人

参加者数 31名（延べ参加者数 126名）

回数 5回 日数 5日 時間 11時間30分

場所 新潟市石山地区公民館 3階 講座室ほか

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月5日(月) 13:30～16:00	男も女も楽しむ料理～会話が弾む簡単料理～	企画委員
	内容・方法	○手軽にできる簡単でおしゃれな料理（4品）を作り、会食をしながら、はじめて出会う人同士の交流を図った。 ○企画委員が講師となり、運営に携わったことで和気あいあいの雰囲気生まれた。	
2	11月12日(月) 13:30～15:30	音楽はコミュニケーション ～音楽療法の紹介・音を楽しむ～	音楽療法士 丸山 敬子
	内容・方法	○初めて出会う参加者のゆるやかな関係をつくるために、音楽療法の手法を取り入れた。 ○音楽療法の概念を学び、この手法がいろいろなところで使われているなど、知識を習得するとともに、グループワークを取り入れ、話し合いや交流する場を設けた。	
3	11月19日(月) 13:30～15:30	懐かしの映画音楽とジャズのABC（公開講座）	ジャズピアニスト 青木 昌巳
	内容・方法	○懐かしい映画音楽を導入にジャズを解説つきで聴くことで、音楽に親しむきっかけとなった ○演奏だけでなく、講師の人となりや話を聞いて、人生談義の場にもなった ○公開したことで、参加しやすい工夫ができた。	
4・5	12月3日(月) 12月10日(月) 13:30～16:00	あなたのすてき発見 ～上手な聴き方・話し方1・2～	健康生きがいづくりアドバイザー 堀内 一恵
	内容・方法	○「傾聴」をテーマとしたが、わかりやすく日常に活かせるよう工夫した。 ○体験する場を多く設けた。聞くこと・話すことを個人作業やペア、グループといくつかのパターンで体験し、自分自身のくせなどに気づくよう促した。一番できにくい身近な人とのコミュニケーションを見直すきっかけとなった。	

成 果

- ・ 公募した企画委員が企画会議を積み重ねて、プログラムができた。企画委員による参画を促したことで、より現代的課題を市民に提供できた。
- ・ 団塊の世代を含めた男性に参加してもらえるかを話し合うなかで、リレートークを入れ人の顔が見える公民館のようすを情報発信しようと、『おおきなかぶ新聞』と命名された瓦版が4号発行された。
- ・ 終了後のアンケートに、次年度の企画に参加したい人の記名が8人（24人中）あがった。

課 題

- ・ 公民館の主催事業に参加する男性が極端に少ない。男性が参加しやすいプログラムの工夫がますます求められ、企画の段階から男性が入る工夫が必要である。
- ・ 男女ともに人生を豊かに過ごすため、さまざまな角度からプログラムが練られることが重要である。

問合せ先 新潟市石山地区公民館（担当：熊谷いみ子）TEL：025-286-5631

事業名 平成19年度「プレミアムライフ塾」

趣 旨 団塊世代の人を対象に、定年退職後の生活を活動的に過ごすための学習機会を提供することを目的とし、いきがい・趣味的なものから、地域社会貢献活動、退職後の生活設計に関するものまでをテーマとした講座を開催する。

実施主体 新潟市中央公民館

参加対象 団塊世代の人・定年退職を控えた人

参加者数 延べ 128名

回 数 6回 日 数 6日 時 間 12時間

場 所 新潟市生涯学習センター 403講座室 ほか

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月13日(土) 10:00~12:00	定年後の人生の楽しみ方	オールアバウトガイド 工藤 宇一
	内容 ・方法	○資料をもとに、定年退職後の人生の楽しみ方(概論)についての講義を行い、講師の豊富な体験談や参考書籍などが紹介された。	
2	10月27日(土) 10:00~12:00	人生これから!ココロもカラダも健康に	(有)chika プロモーション 代表取締役 伊藤 千賀
	内容 ・方法	○前半の約1時間は、心と身体の健康についての講義を行い、健康に必要なこと(栄養・休養・運動)などについて学んだ。 ○後半の約30分間は、講師の指導のもと、軽く身体を動かした。(正しいウォーキング方法、正しい姿勢のとり方、呼吸方法など)	
3	11月10日(土) 10:00~12:00	気になるお金の話 これからの家計を見直そう	金融広報アドバイザー 浦壁 澄子
	内容 ・方法	○資料をもとに、退職後のライフプランやマネープランについての講義を行った。	
4	11月17日(土) 10:00~12:00	めざせ地域デビュー!自分のできることを探そう	(株)博進堂アドバイザー 居城 葛明 ほか
	期日・時間	テーマ	講師等

	内容・方法	<p>○パネルディスカッション形式で実施し、退職後の時間的な余裕を社会貢献活動、地域活動、ボランティア活動などにあてることについて、会場全体で話し合った。</p> <p>《パネリスト：3名》①谷田 健六（子育て支援・鳥屋野地区教育会議会長） ②大高 裕子（ボランティアネットワークこんぺいとう） ③丸山 実（平成18年度「プレミアムライフ塾」受講生）</p> <p>《コーディネーター》 居城 葛明（榊博進堂サブマネージャー）</p> <p>○パネリスト①②からは現在の活動内容を紹介していただき、パネリスト③からは団塊世代の立場から発言していただいた。途中、受講生全員からも発言してもらう機会を設け、パネリストとの質疑応答など、活発に意見交換が行われた。</p> <p>○コーディネーターは、発言内容等を模造紙にまとめながら進行した。</p>		
		期日・時間	テーマ	講師等
5		12月8日（土） 10:00～12:00	働き方あれこれ 自分にあった働き方を探そう	すがわら恵子 社会保険労務士事務所 菅原 恵子
	内容・方法	<p>○はじめに4人1組で自己紹介をし、その後、資料をもとに、定年後の多様な働き方についての講義を行った。</p> <p>○最後は再度4人1組になり、定年後の働き方についてグループで話し合った。</p>		
6		期日・時間	テーマ	講師等
	内容・方法	12月15日（土） 10:00～12:00	定年後の新しい世界へ	オールアバウトガイド 工藤 宇一
		<p>○資料をもとに、定年後の夫婦のあり方についてを中心に講義を行った。</p> <p>○後半の約40分間は、以下の4つの中から興味のあるテーマを選択し、グループにわかれて話し合いを行った。</p> <p>①定年後の夫婦のあり方（定年後の家事分担） ②定年後のリズムづくり（いきがい探し） ③定年後の居場所づくり（家の中の居場所・外の居場所） ④定年後の友だちづくり（定年後の楽しみ方）</p>		

**成 果**

- グループで話し合う時間を何回か設定したことにより、受講生同士の交流が深まったと思われる。最終回では連絡先を交換し、次に集まる日時を決めていたグループもあった。受講生から毎回提出してもらった感想には「話し合いの時間があってよかった」「他の人の考えが聞けて参考になった」という内容が多く、話し合いの時間があった回は概ね好評だった。

**課 題**

- アンケートによると、講座内容によっては物足りなさを感じている人がいた。団塊世代の人たちのニーズを把握した上で、内容について再検討する必要がある。
- 団塊世代より上の世代の人でも数人受け入れたが、その中には講座の内容に満足できない人もいた。グループでの話し合いをスムーズに進め、満足度を高めるためにも受講生を団塊世代に限定する必要があると思われる。

**問合せ先** 新潟市中央公民館（担当：高島純子） TEL：025-224-2088

事業名 **長寿大学**

趣 旨 老年期にふさわしい社会的能力を培い、自主的生活の維持と世代との融合に努力し、生きがいのある生涯のために学習を進める。

実施主体 神林村教育委員会 生涯学習課

参加対象 60歳以上

参加者数 100人

回数 年10回 日数 年10日 時間 1回につき1時間20分程度

場所 神林村総合体育館内柔剣道場、アリーナ

内 容 (10回のうちの2回)

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月18日(水)	「子どもの育ちと、お年寄りの役割」	村上市教育支援センター 主任指導員 渡邊 顯
	内容・方法	家庭や地域で子どもたちとの関わり方に戸惑っている高齢者に、ちょっとアドバイス。今の子どもたちが抱える問題や、家族のあり方について、講師ご自身の経験や、事例をユーモアを交えながら楽しくわかりやすく講話していただいた。受講者からは、とても好評でリクエストが多かった。	
2	9月14日(金)	子どもと一緒に考える人権・いじめ	劇団 プレイバックーズ
	内容・方法	友達同士、家族の会話の中にごく普通に飛び出る他人に対する無神経な言葉、それは人権への意識の低さからきているのかも。子どもがその言葉に深く傷ついている人がいるとしたら？参加者の生の声を題材に即興劇にしたり鑑賞する機会を提供した。参加者は自らが人権について考え、子どもたちの心を理解するきっかけとしてもらう。 青少年育成村民会議、福祉課とのタイアップにより、村内小学5～6年生、中学生全員、さらに一般住民にも案内し演劇鑑賞をした。参加者数 約600人	

成 果 ・ 第1回目で、子どもとの関わりや家族のあり方に戸惑いを持つお年寄りに、子どもが育つためには家族が育つことが必要。みんなで成長する家族を作るには、お年寄りの存在は大きい。と家族の大切さやその中でのお年寄りの役割を学び、第2回目では家族またはそれより少し大きな社会の中で、子どもが感じていることや悩みなど、演劇をして自分のこととして感じ、子どもたちの理解につながったと思う。

課 題 ・ 第2回目について、子供とお年寄りとの交流を図りながらお互いを理解する、尊重する(人権について学習する)目的で初めての試みとして実施したが、参加人数が多すぎたこと、時間的制約があったことにより有意義な交流が図れなかった。また、演劇スタイルが田舎の高齢者には馴染まなかったこと。異なる世代が相互理解するためには時間がかかる。単発の講座で終わらず、テーマを設け継続的、段階的な展開が重要と考える。また、受講者の自発的な活動を促す工夫も今後の課題としたい。

問合せ先 神林村生涯学習課社会教育係(担当 鈴木美宝) TEL: 0254-66-8111